

「和、輪、話」のまち につば

平和・福祉の「和」、みんなが手をつなぐ「輪」、みんなが話し合う「話」



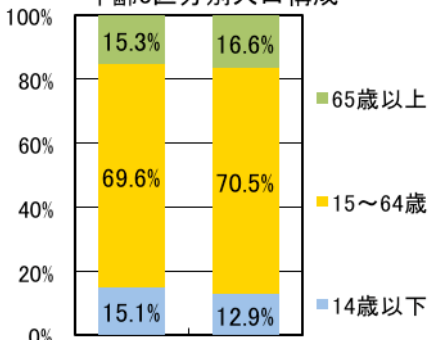
1 新羽地区の人口

新羽地区人口と世帯数

| | 世帯数 | 人口 | 平均世帯人員 |
|------|---------|---------|--------|
| 新羽地区 | 6,150 | 12,985 | 2.11 |
| 港北区 | 157,054 | 324,813 | 2.07 |

*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



新羽地区 区平均

2 わたしたちのまちの特色

新羽地区は、新羽町、北新横浜をその範囲にしています。総人口は12,985人（平成22年9月末現在）、5年前に比べて982人増加しています。当地区は高齢者よりも、年少人口の割合が高く、区内でも2番目となっています。一方、高齢者は5年前に比べ4.3%、約665人の増加となり高齢化が進んでいます。

新羽地区には8つの町内会があります。近年、工場や倉庫が多かった地下鉄沿線にマンションが新設され、若者世代の増加が目立ってきています。一方で、町内会加入率は低下してきており、加入促進が今後の課題となっています。

新羽駅、北新横浜駅周辺に医療施設ができて、具合が悪くなくても地元ですぐに診察してもらえようになったことは高齢化が進む中での安心材料です。一方、幼稚園は一つしかなく他地区の施設に頼る現状です。

また、新羽地区には、福祉保健の拠点となる施設がありません。地域ケアプラザ、地区センターの建設は地域の住民の切なる要望です。

緑道公園が北新横浜から新吉田まで整備が完了しました。又、地区の東側、南側に鶴見川が流れています。これらの資源を大いに活用していきたいものです。

3 これまでの頑張り

第1期地域福祉保健計画にもとづき、新羽地区では「パワーアップにつば」「竹の子につば」「たんぼぼにつば」などの活動を推進してきました。

第2期計画の策定に先立ち、準備委員会を開催し、第1期計画の(1)交流、(2)情報・相談、(3)場所・拠点、(4)ボランティア・担い手、(5)安心・安全の5項目について振り返りを行いました。

(1) 交流

イベントは開催できたが宣伝がまだ不十分でした。フェスティバルは地域行事として定着した一方、健民祭、防災拠点訓練等は毎年実施しているものの、参加者に偏りがあります。町全体の行事になるようにしていくことが課題です。

交流の仕組みづくり、障がい者を理解して地域との交流を充実すること、情報伝達の方法等は今後も継続して検討すべき課題として残りました。

(2) 情報・相談

町内会加入が62%と低いことが情報の伝わりのネックとなっています。子ども会、老人会、PTA等を通じて加入促進を図っていくことが課題です。

(3) 場・拠点

新羽地区最大の丘陵公園の有効利用を検討します。高齢者の活動の場を作るため老人会との連携を検討します。

(4) ボランティア・担い手

担い手の人材不足を解消するため、活動のPRの方法等の検討が必要です。

(5) 安心・安全

防犯灯のLED化の推進、学援隊との連携による学童の見守り、新入生への黄色い帽子の贈呈は今後も続けていきます。

4 これから目指していく姿

新羽地区6,150世帯の絆をより強くし、「思いやりと花と緑のまちづくり」のために、次の4点を基本テーマとして、地域福祉の取り組みを進めます。

- (1) 災害時に援護が必要な人の把握を進めより充実した活動にしていく。
- (2) 地域の福祉活動の情報の共有や周知の徹底を図る。
- (3) 異世代交流を、より活発にしていく。
- (4) 「新羽」のまちを知る活動を進める。

5 わたしたちのまちの取組

「ひろがる」、「つながる」、「とどく」をキーワードに、新羽の目指していく姿の実現に向けた取り組みを進めます。

情) 情報の共有や周知 異) 異世代の交流 町) まちを知る

| キーワード | 取組 | | |
|-------|-----|---|---|
| | 目標 | 具体策 | |
| ひろがる | 理解 | 異) 地域にある活動グループの周知 異) 役員相互の連絡協力ができる体制づくり 町) 町を愛してもらい、町の現状を知る、町の地理を知る | 異) 町会定例会で、役員にお願いする 異) グループに窓口をつくり、その団体の連絡網を活用して情報を伝える 町) 住民に見どころの多い「にっば」をPRする |
| | 担い手 | 情) 人材募集のPRの仕方を工夫し、60歳以上の人達にも活躍してもらい 異) 趣味等の、同好会、クラブなどの掘り起こし 町) 町内会各役員（地区社協評議員）及び有志を中心に担い手を確保する | 情) 町内会役員会等、各種委員会にてPRする 異) 町会を通じて聞き取り調査をする |
| つながる | 知る | 情) 青指、体指、町会、子ども会、民生委員児童委員、ボランティア団体それぞれの活動をつなげる 情) 小中学校との連携 異) 様々な世代が参加してまちを歩き、まちを知る 町) 名所を巡るとともに、福祉施設や避難場所を覚える | 情) 各団体と連携して、新羽地区の催し物カレンダーを作って配布する 情) 学校・家庭・地域連絡協議会に積極的に参加する 異) 「パワーアップにっば」と老人会がハイキングを計画する 町) ハイキング、ウォーキングのルートや見所のマップづくり |
| | 活動 | 異) 青指、体指、子ども会の三本柱の強化 異) グループの催し物などに他のグループが参加し協力するようにする 異) 「ガッツにっば」の活動の活発化 町) 様々な世代が利用できる山間部と緑道の散策ルートをつくる | 異) 青指、体指、子ども会の活用をはかる 異) 「竹の子にっば」の芋煮会に「たんぼぼにっば」が参加する 異) 「たんぼぼにっば」を老人会が手伝う 異) 様々な世代が参加できるソーメン流しなどの催し物を定例化する 町) ハイキング、ウォーキングのルートや見所のマップづくり |

| | | | |
|-----|------|--|---|
| とどく | 情報 | 情) すべての人にすべての情報を届けるのではなく、必要な人に必要な情報が届くようにする 異) 地域の年間行事予定をつくる 町) 野菜や果物を直販しているところを知りたい、伝えたい 町) 鶴見川周辺にある資源をいかす | 情) 町会未加入者に対しても PR できるように掲示板を増設し積極的に活用する 異) 各種団体が年間計画を出し合い、年間行事計画をつくり、掲示板等に掲示する 町) マップをつくり、個人でも楽しめるようにする 町) 年 2 回程度ウォーキングを開催する 町) 鶴見川周辺でコスモスの植栽、ホタルの飛べる環境の再生、10 万本のチューリップ畑づくりなどをすすめる |
| | 早期発見 | 情) 老人会や敬老会行事を通じて高齢者や独居者の情報把握をすすめる。行政との連携もすすめる。 | 情) パワーアップにつば、老人会、民生委員から情報を得る |

6 繰り返りの仕方

取り組み項目の進捗^{しんちよく}については、年度初めの 4 月をめぐりに実行委員会を開催し、分科会ごとに振り返りを行い達成度合いを確認し、次年度の活動の修正を行っていきます。また、地区社協の総会で活動報告を行うこととします。

7 最後に



地域福祉保健計画の立案にあたって、準備委員会を立ち上げて方向を決め、策定委員会での検討へと進みました。策定委員会で今後の進め方を検討した結果、地区社協評議員会を開催し、新羽町を北、中、南地区にわけ、現在行われていることのリストアップまた、今後必要と思われること（課題）の洗い出しを行いました。

次に、評議員の中から各団体の責任者を中心に人選し、実行委員会を作り 4 つの基本テーマに対応した分科会を組織しました。

第 1 期地域福祉保健計画では、新羽地区支えあい連絡会で計画を推進してきましたが、第 2 期の計画では、みなさんの協力・支援を得ながら、実行委員会が責任をもって推進していきます。

なお、平成 20 年度には、「災害時要援護者支援事業」に取り組み、災害時に援護が必要な人の把握や支援方法について検討をすすめました。

これから目指していく姿の取り組み (1) については、個人情報^{こじんじょうほう}の扱いについて十分に留意して取り組むものとし、『「和、輪、話」のまち につば』から独立した地域の取り組みとして並行して展開します。

計画づくりに参加した組織・団体

新羽町連合町内会、新羽地区社会福祉協議会（地区社協）、新羽地区民生委員児童委員協議会、保護司会、保健活動推進員会、パワーアップにつば、竹の子につば、たんぼぼにつば、大竹シニアクラブ、新羽町連合子ども会（子ども会）、青少年指導員（青指）、体育指導員（体指）